

西小は おおきな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言～

平成 30 年 8 月 27 日 (月) No.22
発行人

抜歯後の痛みがひどくて夜眠れない川崎先生(T_T)。誰か助けてえ～。

◇8月24日(金) 始業式の朝に◇

約一か月ぶりに校門に立った。夏休み前と同じように、元気にあかるくあいさつして校舎に向かう子どもたち。「昨夜、弟が窓開けたまま寝ちゃって～」「校長先生、これ新しいカバン(´^`)」自由研究、えらかったあ～」「帽子忘れちゃった」・・・etc。

そうそう、これこれ。このホッとする朝のひと時。何げないやりとり。なにも飾らない純粋な言葉の数々。だからこちらの心にずっと沁みていく。言葉を選んでいるわけではなく、その瞬間に想ったことをありのままに言葉にしている。その響きから、子どもの「うれしさ、かなしさ、楽しさ、辛さ」が素直に伝わってくる。

今日から再び始まる至福の時間。川崎の宝物。

◇夏休みが終わって感じること◇

◆**まずは**、夏休み前の約束通り、“全員あやめホール”に集まれたことの幸せ。何事も無く、平穩無事に座っている子どものいること。これがなにより一番ありがたい。やっぱり「西小は大きな家族」。全員そろっていることの“当たり前”に感謝。

◆**しかし**、7月後半と、8月後半の、気持ちの有り方の差に驚く。すっごい楽しみ！とすっごい悲しみ↓ 一か月は長い\(^o^)/と、一か月は短い(T_T)の、真逆な気持ちの交錯。人間はなんと愚かなのだろう。還暦間近の自分でさえこれだ。子どもたちの悲しみや、いかほどのものか。(あっ、もしかしたら川崎だけ?)

◆**始業式の中**での4年生全員から「夏休みを振り返って」が発表された。県内外へお泊りしたり、花火大会へ行ったり、遊園地へ行ったりと、楽しい思い出がいっぱいだ。「サッカーの試合で点を取ったのはうれしかったけど、負けたのは悔しかった」なんてのもあった。普段とは違った場所へ行ったり、いろんな経験をすることって楽しいよね。川崎もそういうの大好きです。(ちなみに川崎は平泉(岩手県)に行ってきた。高速道路の渋滞や通行止めに懲りた懲りた(>_<)。行きは夜中の12時に出発して、現地に着いたのが昼の12時。帰りは、昼の12時に現地を出て、家に着いたのが夜の10時。もう二度と車では行かない。・・・でも新幹線は家族4人だと高いんだよなあ～(>_<))

◆**夏休み中は**、なかなか子どもたちと会う機会がない。でもいろいろな場面や場所で子どもたちに会えて、その姿を見て安心していた川崎でした。プールで元気よくはしゃいでいる様子、六科丘古墳の近くで手を振ってくれた男の子、川崎の家の前で車の窓から手を振ってくれた女の子、平岡の盆踊りではたくさんの平岡の子どもたちに会えて、これまた安心できた。川崎は射的のコーナーにいたけど、ごっそり景品を取って行ったM兄弟をはじめ、大勢遊びに来てくれたこと本当にうれしかったよ\(^o^)/